平成２３年３月２２日　発行

中村設計新聞

第十八号

二月一九日（土）晴れ

今月の土曜研修は京都岡崎にある京都市美術館と京都国立近代美術館を見学しました。

○はじめに

今月の土曜研修は、京都岡崎にある京都市美術館と京都国立近代美術館の二つの美術館を見学し、見学後市美術館の敷地内にある喫茶店で美術館についてディスカッションを行いました。

ディスカッションでは両建築を見学して美術館の『使われ方』『空間について』話し合う事を目的にし、市美術館では大学の卒業・修了制作展を見学、学生の若いエネルギーに溢れる作品に触れました。近代美術館では美術館の所蔵するコレクション展を見学し貴重な美術品を観賞しました。

鳥居の両脇に美術館あり！

レポート①

○二つの『美術館』を見て

今回、市美術館と近代美術館を見学し岡崎という場所の美術館、博覧会場的な特徴をとても堪能する事ができました。

二つの美術館を見た印象として残ったのは、出展内容でわかる様に美術館としてのコンセプトの違いでした。

市美術館は大学の卒業制作展や市民団体の展示会を多く開催し市民に開かれた内容であるのに対し、近代美術館は著名な画家の個展や常設展を行ったりと、来場者を対象としているように感じました。

この対比が岡崎の美術館のあり方をより一層面白くしていると感じました。

○レポート　井澤　弘隆

昭和天皇御即位の記念に建てられた京都市美術館は正に当時最大規模！！

近代美術館の３階まで吹き抜けたロビーはとても印象的！

レポート②

京都国立近代美術館と京都市美術館の見学を通じて

京都岡崎の同じ場所に建つ美術館ではあるが、全く違う美術館を同時に見学しみて、それぞれ単独で見学した時とは違う印象でした。

前田健二郎設計による京都市美術館、槇文彦設計による京都国立近代美術館、戦前と戦後、５３年の開きは公共建築の設計思想に大きな隔たりが感じらます、まず歴史的視点や美術館としての機能だけの視点で両者を比較するのは意味のないことです。

今回の見学会でもっとも興味深かったことは自分自身の変化についてです。近代美術館が竣工した際、槇さんの記念講演を聞き、設計図書やスケッチを拝見しました。当時感銘を受けながらも、東京の人が見た京都なのだな程度の理解でした。

槇さんのコンセプトスケッチには鳥居を中心に京都市美術館と、単なる箱で表現された近代美術館だけが書かれていました。当時は鳥居に目が行き、対峙する建物が市美術館であることしか感じることはできなかった。しかし、実はそうではなく、市美術館に敬意を払い、市美術館越しの東山、外から内へ、内から外へ、京都を取り込んでいたのではないでしょうか。それが３階ロビーから見る京都であり、１階ロビーから見る疎水越しの京都なのでしょう。改めて京都国立近代美術館の良さに触れた気がしました。

２５年が経過しやっと槇さんの視点に立てたかなと思う自分がそこにいました。

○レポート　岩田　信一

○まとめ

今回、美術館見学後のディスカッションで、お互いが同じ建物を見てどういった印象持ち、注目しているかを聞くことができ、よかったと思います。

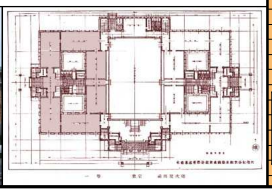
京都岡崎にあって、一見、相いれない両建築が、美術館という同じ用途によって互いに対立しつつも調和しているように感じました。

―京都国立近代美術館―　建物データ

場　　所：京都市左京区岡崎円勝町
構造規模：SRC造地上４階・地下１階建
敷地面積：5,000.60㎡
延床面積：9,983.44㎡
設　　計：槇総合計画事務所
施　　工：竹中工務店，松村組，鴻池組
着　　工：昭和５９年　８月　２日
竣　　工：昭和６１年　９月１５日
開　　館：昭和６１年１０月２６日

―京都市美術館―　建物データ

場　　所：京都市左京区岡崎円勝町
構造規模：RC造一部S造地上２階建
敷地面積：24,331.00㎡
延床面積：9,349.00㎡
設　　計：前田健二郎／京都市建築課
前　　身：大礼記念京都美術館
着　　工：昭和　６年
竣　　工：昭和　８年
開　　館：昭和　８年１１月



※中村設計新聞第一七号のクイズの正解は②番です！